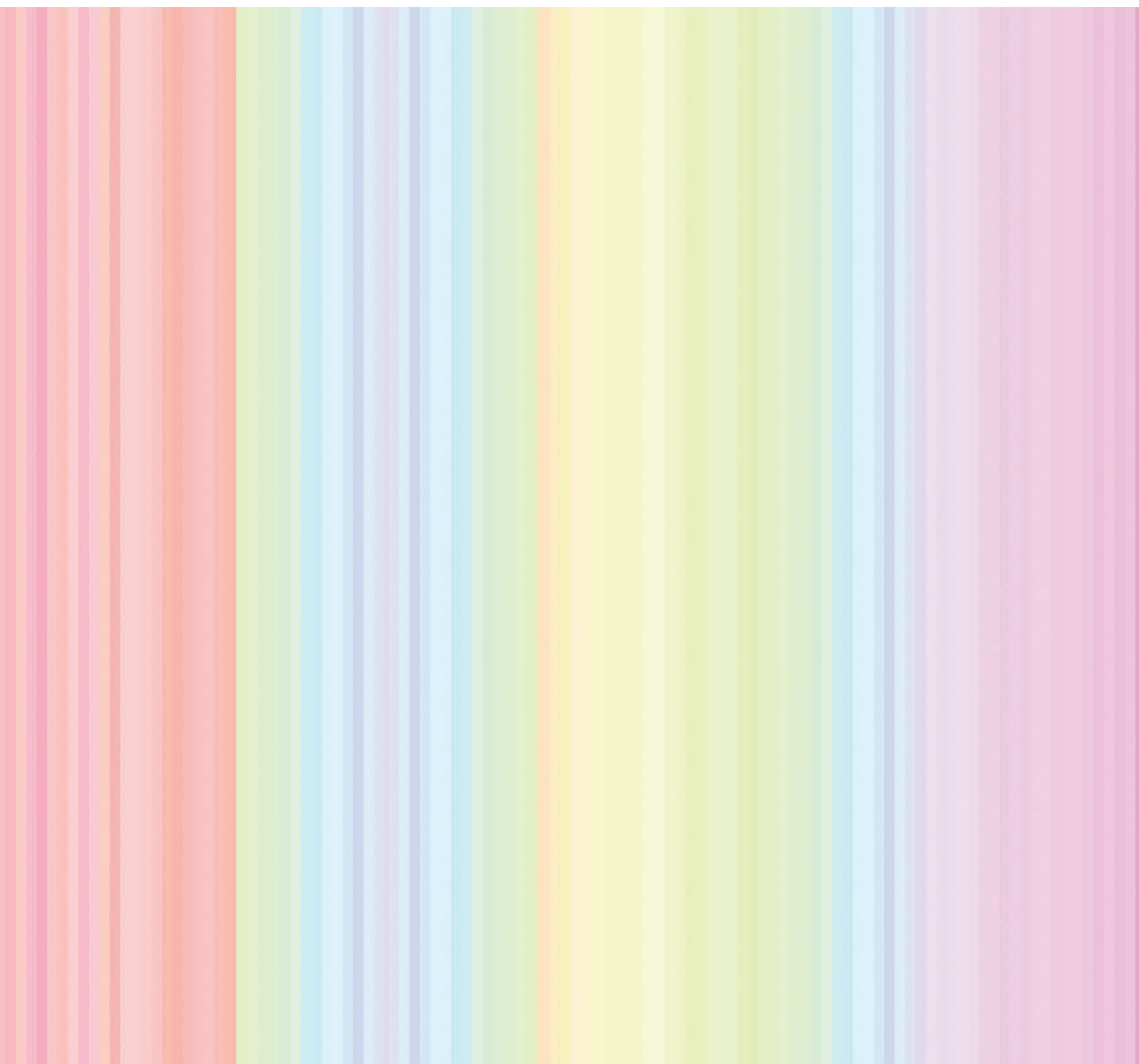


CENTER for the UNIVERSITY-WIDE CURRICULUM

全学共通カリキュラム運営センター



“全学共通科目”と “全学共通カリキュラム運営センター”

立教大学では創立以来、150年にわたり幅広い教養と専門性を養うリベラルアーツ教育に力を入れており、時代の移り変わりの中で、その都度、教養のあり方を全学で考え、教職員が力を合わせて学生と向き合っています。

「全学共通カリキュラム運営センター」（以下「全カリ運営センター」）は、全学の教養教育を担う組織体として1994年12月に発足し、1997年4月から『各学部の教育理念と教育プログラムを根底に置きつつ、全学的な共通の理念と全学的な体制の下で展開する科目群』（「21世紀をめざす立教大学の全学カリキュラムについて—全学カリキュラム検討委員会答申—」より）として「全学共通カリキュラム（全カリ）」がスタートしました。

その後、全カリ第2ステージとして、2010年度に言語系科目、2012年度に総合系科目の改革を行い、そして2016年4月からは“RIKKYO Learning Style（RLS）”（立教大学学士課程統合カリキュラム）を導入し、創立時からの柱である教養教育をさらに深化させた学びの形がスタートしました（全カリ第3ステージ）。RLSは、旧来の学部（専門教育）と全カリ（教養教育）という分け方を廃し、専門教育科目と教養教育科目が有機的に統合された新しい学びのスタイルで、この第3ステージ以降、カリキュラムの名称も「全カリ」から「全学共通科目」に変更しました。

全カリ第3ステージにおける全カリ運営センターは「言語系科目」と「総合系科目」からなる全学共通科目の構想運営を担っています。また、全カリ運営センターは、全学的カリキュラム構想の自由なステージを用意し、学部やその他学内部局が協働しつつ科目やカリキュラムを豊かに創造する場の主催者としての役割も担っています。さらに、2017年度からグローバル教養副専攻の運営も行っています。

目次

“全学共通科目”と
“全学共通カリキュラム
運営センター”
..... 1

運営組織..... 2

所管業務と特徴..... 3

カリキュラムの構成
..... 4

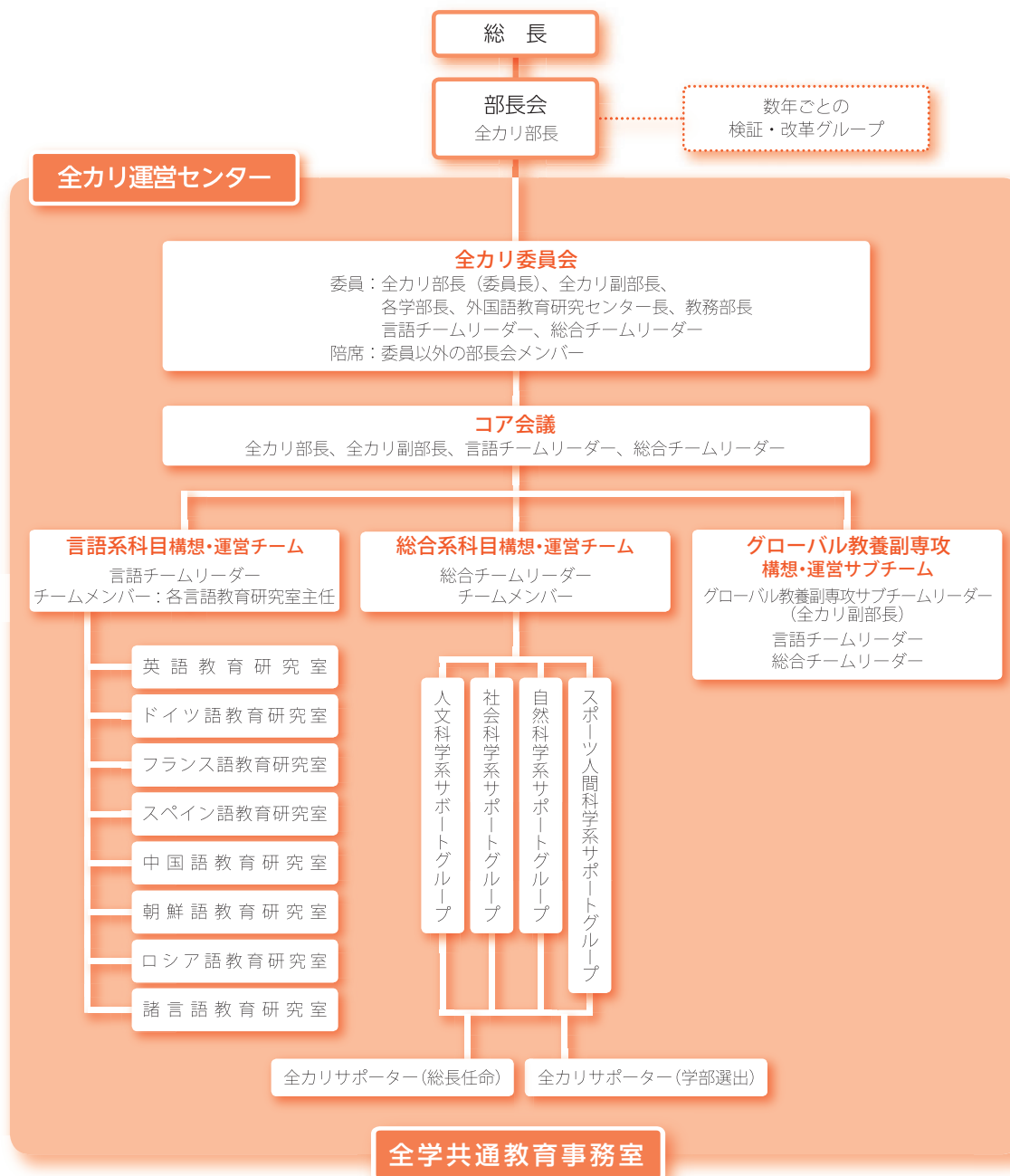
FDと広報 6

略年表 (年月日)

1955 . 4	一般教育部設置
1973	全学カリキュラム委員会設置
1990 . 4	新座キャンパス開校
1991 . 7 . 10	文部省、大学設置基準を改正（いわゆる大綱化） 「全学カリキュラム検討委員会」発足
1992 . 10	「全学カリキュラム作成委員会」発足
1994 . 1 . 12	「全学共通カリキュラム運営センター準備委員会」発足 全学共通カリキュラム運営センター発足
1995 . 3 . 4	一般教育部廃止 大学教育研究部発足
1997 . 4	全学共通カリキュラム開始
1998 . 3	大学教育研究部廃止
2010 . 4	言語カリキュラム改編
2012 . 4	総合カリキュラム改編
2016 . 4	RIKKYO Learning Style開始（総合系科目改編）
2017 . 4	グローバル教養副専攻運営開始

組織図

全カリ運営センターは、全学共通科目の立案・運営に全面的な責任を負う組織です。



所管業務と特徴

役職と職務

部長（全カリ部長）

全カリ運営センターを代表し、その運営を統括します。専任教員の中から総長が任命し、全カリ委員会の委員長を兼務します。さらに大学の最高意思決定機関である部長会に出席し、大学全体の校務に参与します。

副部長（全カリ副部長）

全カリ部長を補佐し、全カリ部長に事故のあるときはその職務を代行します。専任教員の中から全カリ部長と協議の上、総長が任命し、教務、自己点検・評価、FD、その他全カリ部長が指示する事項を担当します。教務委員長、グローバル教養副専攻構想・運営サブチームリーダーも兼務します。

チームリーダー(言語／総合)

言語系科目構想・運営チーム（言語チーム）または総合系科目構想・運営チーム（総合チーム）を代表し、当該チームの運営を統括します。言語チームリーダーは、外国語教育研究センター所属の専任教員の中から全カリ部長と協議の上、総長が任命します。総合チームリーダーは、専任教員の中から全カリ部長と協議の上、総長が任命します。

チームメンバー(言語／総合)

言語チームメンバーは、各言語教育研究室主任が兼務します。主任は、所属する言語研究室の室員の互選により選出し、全カリ委員会の議を経て総長が任命します。総合チームメンバーは、専任教員の中から全カリ部長と協議の上、総長が任命します。

会議体と各チームの所管業務

全学共通カリキュラム運営センター委員会（全カリ委員会）

全カリ部長、全カリ副部長、全カリ委員（言語チームリーダー、総合チームリーダー、各学部長、外国語教育研究センター長、教務部長）で構成し、全カリ運営センターの所管事項、全カリ委員会の発議による事項を決定します。

コア会議

全カリ部長、全カリ副部長、言語チームリーダー、総合チームリーダーによって構成され、全カリ運営センターにおける審議事項を決定し、必要に応じて全カリ委員会への上程を了承します。

教務委員会

全カリ部長、全カリ副部長、言語チームリーダー、総合チームリーダーによって構成され、全学共通科目における教務事項を決定します。

チームミーティング(言語／総合)

言語／総合チームミーティングは、チームリーダー、チームメンバー、陪席の全カリ部長、全カリ副部長によって構成され、言語系科目、総合系科目のカリキュラム編成や運営、予算執行などを所管します。

グローバル教養副専攻構想・運営サブチームミーティング

全カリ部長、全カリ副部長、言語チームリーダー、総合チームリーダー、必要に応じて関連部局を交え、副専攻カリキュラムの管理運営、教務事項、コース提供部局との調整などを所管します。

言語教育研究室

言語教育研究室は、英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語、朝鮮語、ロシア語、諸言語で構成し、それぞれ主任および室員が配置されています。また、各言語教育研究室は、言語チームの指示により、教員配置や教務事項、授業方法・授業形態の立案、予算の立案ならびに執行、担当者連絡会・FDセミナー等の企画と実施を担当します。

サポートグループ

全カリサポーター（学部選出、総長任命）で構成され、主に総合チームの指示により、教育方法の研究開発、教員配置、教務事項に関する事項等について総合チームメンバーに必要情報を提供し支援します。人文科学系サポートグループ、自然科学系サポートグループ、社会科学系サポートグループ、スポーツ人間科学系サポートグループのいずれかのサポートグループに属します。全カリ運営センターの求めに応じて、言語チームの活動を支援する場合があります。

全学で支える全学共通カリキュラム運営センター

専任教員の科目担当ルールと一定の専任教員担当率の確保（専任担当ルール）

全ての専任教員は、全学の合意に基づいて定められた担当ルールに従い、全学共通科目を担当します。そのため、所属学部等の教員であると同時に、全カリ運営センターの教員として、全ての学生に対して教育責任を負っています。

多様な学びの形態を用意

総合系科目では、通常の講義系科目に加え、外国語による総合系科目（F科目）や演習形式の科目（「立教ゼミナール」等）など、多様な学びの形態を用意しています。また、言語系科目での日本手話、総合系科目でのスポーツ実習の科目など、科目の特性によりチームティーチング（1科目あたり2名の教員が常時参加）できる仕組みを整備するなど、フレキシブルな担当形態を用意しています。

科目の企画提案の仕組みを整備

各教員が研究内容等に応じて、総合系科目で開講する講義形式の「コラボレーション科目」、演習形式の「立教ゼミナール発展編」の2種類の科目を企画・提案することができます。

専属の事務体制を配置

全ての学部・学年を対象に展開する言語系科目、総合系科目、グローバル教養副専攻の編成と運営を保障するため、一般の教務事務とは別に専属の事務部局（全学共通教育事務室）を設置しています。専属スタッフが配置され、全学共通科目のカリキュラムマネジメント、全カリ運営センターの組織マネジメントなどを担っています。

カリキュラムの構成

全学共通科目

言語系科目 ^{*5}	構成	科目名	履修期
	言語A (英語)	必修科目 ^{*1} 英語ディスカッション 英語ディベート 英語リーディング&ライティング1・2 英語プレゼンテーション eラーニング 自由科目	導入期 (1年次春学期) ~ 形成期 (2年次春学期) ~
	言語B	必修科目 ～語基礎1・2 ^{*2} 大学生の日本語A～D ^{*3} 自由科目 ^{*4}	導入期 (1年次春学期) ~ 形成期 (2年次春学期) ~

^{*1} 一定以上の英語力をもつ学生には、別途、上級科目が用意されている（ディスカッション、ディベートを除く）。
^{*2} 「～語」は、それぞれドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語、朝鮮語、ロシア語（理学部、経営学部、コミュニティ福祉学部福祉学科を除く学生が選択可）と読み替え。
^{*3} 外国人留学生のみ選択可。
^{*4} 言語必修科目履修免除（単位認定）者は、1年次から当該言語の自由科目を履修できる。
 また、第3の言語として他の言語Bの言語について「基礎～語初級」を履修できる。
^{*5} PEACE プログラム生（一部除く）、NEXUS プログラム生は日本語1言語のみ必修科目として履修する。

総合系科目	科目群	カテゴリ	履修期
	学びの精神		導入期 (1年次春学期) ~
	多彩な学び	1. 人間の探究 2. 社会への視点 3. 芸術・文化への招待 4. 心身への着目 5. 自然の理解 6. 知識の現場	形成期 (1年次秋学期) *~
	スポーツ実習	スポーツプログラム スポーツスタディ	導入期 (1年次春学期) ~

* 多彩な学びで開講する「立教ゼミナール発展編」「RSLゼミナール」は、完成期（3年次春学期～）の履修を推奨する。

言語系科目

多文化共生を視野に入れた「異文化理解」を深めるとともに、異なる文化に属するさまざまな人々とコミュニケーションを取ることができる「言語運用能力」の修得を目指しています。この理念から、全学共通科目の言語系科目では「英語を含む2言語必修」を採用し、英語（言語A）の他に、言語Bとしてドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語、朝鮮語、ロシア語から1言語を選択して学びます。ロシア語は理学部、経営学部、コミュニティ福祉学部福祉学科を除く学生が、日本語は文学部文学科ドイツ文学専修・フランス文学専修を除く外国人留学生のみが必修科目として選択できます。

複数の言語を学ぶこと（複言語主義）により、すべての学生が、複眼的な思考を備えた真の国際人として活躍できる力を身に付けるための教育に取り組んでいます。

言語A 英語

必修科目

英語ディスカッション

徹底した少人数クラスで英語を用いてディスカッションすることで、今まで得た英語の知識を実際のコミュニケーションの場で使う経験を積み、相手のことを理解し、自分の意見を発信できるインタラクティブな英語力を身に付けます。

英語ディベート

特定のテーマについて肯定側と否定側に分かれて議論することを通して論理的かつ批判的に考える力、情報を収集し活用する力、他者と建設的に議論する力、合理的な意思決定をする力を伸ばします。

英語プレゼンテーション

英語を総合的に使える力を育成します。さまざまな英語の資料を、自分の意見を論理的にまとめ、クラスメイトの前で英語を駆使して発表します。段階的に長いスピーチや高度なプレゼンテーションに挑戦します。

英語リーディング&ライティング1・2

さまざまな英文を効率的に読むためのリーディング・スキル（スキミング、スキニングなど）や、文章構成、パラグラフ、アウトライティングの作成方法を学び、より高度な内容、より長い文章を書く能力を養います。

英語eラーニング

PCを用いた授業でリーディング力とリスニング力を強化し、英語の基本スキルを伸ばします。インターネット環境を利用するため自宅からもアクセスでき、授業時間外の自主学習が可能です。自分のレベル、ペースにあった自律的な学習方法を身に付けます。

言語B ドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語、朝鮮語、ロシア語、日本語

必修科目

～語基礎1・2

入門から初級程度の文法をひと通り習得し、それぞれの言語の簡単な読解、初歩的な日常会話の習得を目指します。

大学生の日本語A～D

各々の日本語力に配慮した形で、大学における学習、生活に必要な日本語の基本的スキルの獲得を目指します。

※言語A、Bでは、さらに言語学習を深めることを目的として、必修科目の言語を2年次以降もレベルに合わせて学ぶことができます。また、日本手話、ポルトガル語を自由科目として開講しています。

総合系科目

価値観が多様化し社会の構造がますます複雑化する現代において、未来を的確に見据え問題を解決するため、自らの専門分野を深く追究するだけでなく、多くの分野に広く関心を持って学ぶことが求められています。総合系科目はこのような広範な視野に立つことを実現するために、導入期、形成期、完成期、それぞれの学びの段階にあわせて、専門領域の枠を超えた人間としての深い認識や価値観、総合的な判断力を養うために用意された「学びの精神」、「多彩な学び」、「スポーツ実習」の3つの科目群で構成されています。

学びの精神

(導入期：1年次春学期～)

大学での学びを始めるにあたり、大学で学ぶこと、また立教大学という場で学ぶことの意味について理解する科目群です。宗教、人権、大学といった立教大学らしい基本となるテーマを包含した科目を多く用意しています。また、教員との対話、学生同士の協働作業などを通して大学の講義の受け方を体得します。自ら調べて考えて発信する、大学での主体的な学びの姿勢を身に付けます。

多彩な学び

(形成期：1年次秋学期～)

専門分野の枠を超えた幅広い知識と教養、総合的な判断力を養うことを目的とした科目群です。リベラルアーツ教育の主軸となるさまざまな主題に基づく、かつ今日的なテーマを扱う6つのカテゴリで構成されています。なお、「立教ゼミナール発展編」と「RSLゼミナール」は、高度で発展的な学習を含む科目として、完成期（3年次春学期～）での履修を推奨しています。

スポーツ実習

(全期：1年次春学期～)

健康維持・増進を目的として、実践・講義を通し、科学的知識・技能・スポーツにまつわる文化的背景を学ぶ科目群です。実技を中心とした「スポーツプログラム」、理論の講義をしっかりと取り入れた「スポーツスタディ」により、心身に関してバランスのとれた知性や判断力を養います。

グローバル教養副専攻

グローバル教養副専攻は、「専門性に立つグローバル教養人の育成」を目標とするプログラムです。学生は所属学部学科や専修の専門性に加えて、グローバルかつ多面的に物事を捉えて持続的に考える力を身に付けるため、自らの興味・関心に応じた副専攻のコース・テーマの科目を学び、「海外体験」を行います。所定の修了要件を満たした場合には、大学から修了証が発行されます。

グローバル教養副専攻のコースとして、全カリ運営センターが提供する言語系科目に基づいた“Language & Culture Course”、総合系科目に基づいた“Arts & Science Course”があり、また、各学部等が提供する“Discipline Course”があります。

Language & Culture Course

- Academic Studies in English
- World Issues in English
- Communication in English
- German Language & Culture
- French Language & Culture
- Spanish Language & Hispanic Culture
- Chinese Language & Culture
- Korean Language & Culture

Arts & Science Course

- Global Humanity
- Global Social Experience
- Global Art Experience
- Global Mind
- Global Studies of Nature and Environment
- Global Citizenship
- Global Sports
- Global Studies of Region

Discipline Course

- Teaching Japanese as a Foreign Language
- Data Science
- Experience Opportunities in Japan for International Students
- International Cooperation
- Global Leadership
- Japanese Studies in English Program



立教大学

全学共通カリキュラム運営センター

